

庶 務 課

令和 8 年度 第 1 回教育推進プラン点検・評価委員会
議事概要

1 日時	令和8年7月1日（水）午後6時～7時30分
2 場所	オンライン開催
3 出席者	【委員】 若林彰（有明教育芸術短期大学学長）前島正明（北京大学大学院教職研究科特任教授）、長田智之（公募区民）、長谷川恵理（公募区民）、葛西利昭（浅間竖川小学校長）、近藤啓太（南砂中学校長）、芦田敦子（第二亀戸幼稚園長）、沼田明（小学校PTA連合会会長）、持川雅憲（中学校PTA連合会会長）、田中はるか（幼稚園PTA連合会会長） 【理事者】 本多教育長、青柳教育委員会事務局次長、瀧澤庶務課長、松崎学校施設課長、瀧川学務課長、金指指導室長、阿久津教育支援課長、野沢地域教育課長、吉木江東図書館長
4 欠席者	塩野恵（第二南砂中学校長）
5 点検・評価項目	テーマ1 学び・育ち 施策1「確かな学び」 施策2「豊かな心」 施策3「健やかな体」 テーマ2 自分らしさ 施策4「個に応じた教育」 施策5「丁寧な相談」
6 意見・質疑	【テーマ1】 （委員） 体力の向上についての説明の中で、成果指標にとらわれずという発言があったが、だとしたら成果指標は要らないのではないかな。 （理事者） 数値については学校でも意識をしながら取り組みを進めている。こういった体力調査の結果には表れないところだが、運動が好きであるなど、日常的に取り組む施策も充実させていきたい。 （委員） 多様性を認め合う教育というのは、指標として伸びがよく、みんな多様性があるのだなとわかるが、連続した学びの保障の成果指標がずっと下回っている。ここ何年も数字が伸びていないが、なぜなのか把握しているか。

(理事者)

学力調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象に毎年行われており、対象となる子どもたちが毎年変わる。分析は毎年行っているが、問題に対する回答の仕方や、子どもたちに見つけさせなければいけない力であるなどへの学校での取り組みは充実をさせていただいている。学力調査には、全国的なものがあり、区としては、国や都の平均を上回っているところがある。指標については、下回っているが、確実に子どもたちが学力を身につけていると捉えている。

(委員)

100として上回ってはいるものの、どちらかというと横ばい、または低下傾向である状況でありながら、目標値の107を達成できていないことは誤差の範囲として見ていいのか。低下の原因を捉えられていて、誤差の範囲としてよしとするという判断なのか、どうお考えになるか。

(理事者)

今回の補足資料集の資料1に令和7年度の学力調査の結果もお示ししている。それぞれの年で、国や都の平均を上回る結果であり、特徴なども分析はしている。資料の右上には、経年の評価などもお示ししているが、第3期プランでも、現状を受けとめながら指標に近づけるような取り組みはしていく。一方で、「自分によいところがある」とか、「役に立つ人間になりたい」というところなど他の意識調査なども向上している部分もあるため、トータルで見ながら対策していきたい。

(理事者)

当然指標を出しているので、それに向かってやっていかなければならないことはその通りである。一番大事なのは、子どもたち一人一人の学力を上げていくことであり、一人一人の課題に応じた授業に変えていくことだと思っている。学校ごとに、それぞれの子どもたちに応じた授業改善をしていくことが大事であり、各校は、自分たちの数値は全部細かく見ている。今、学習指導で大事にされているのは、子どもたちが主体的に学ぶということであり、そういった授業改善に取り組みつつ、数値を上げていく努力をしてもらっている。また、東京都は全国的に見てもナンバーワンに近い数値である中で、それを上回っている江東区は非常にレベルが高いと言える。高い数値目標の達成状況を右肩上がりになるよう、各校には非常に努力してもらっているとご理解いただきたい。

	(委員) 単純に成績が上回ったらいいかというわけではなく、そこに何か課題はないのかという視点で見ていくこと、授業改善していくことが大事だと思っている。スコア的に下回っているお子さんもあるので、すべてのこどもたちに等しく授業を提供し、例えば国語であればどういうことをやっていけばいいか、算数だったらどういうふうにやっていこうかというところを、こうとう学びスタンダードに基づき授業改善に取り組んでいる。江東区はこのスタンダードという面で講師の人を配置している。学校によっては、4クラス、8個にコースを展開して算数の授業やっている状況があり、このような取り組みを通じて、学力が少しでも付くように努力している。運動に関しても同様である。 (委員) 「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」の児童・生徒の割合については、点検評価委員会で毎回話題にしているところだが、令和7年度は、96.2%。元年度から比べて一番、高い値になっており、教育長が情報モラルの出前授業をされていることが功を奏していると思う。ぜひ100%を目指して、これからも色々な取り組みを進めていただきたい。 I C Tの推進校を決める、或いはI C T機器の更新をして、新しい規程の中で取り組んでいると思うが、こんな良いところがあるよという成果についてあれば教えていただきたい。あと、これからは生成A Iをどのように活用していくのか、これから学習資料の改定の中でも言われてくると思うが、どういうお考えでいるのかお聞かせいただきたい。 (理事者) I C Tの活用については、オンラインマガジン等を通して取り組みを学校に周知することで、各校での活用が進んでいると捉えている。また、学校を訪問すると、日常的に端末を使った授業が実践されており、先生だけでなく、こどもたちも日頃から活用している状況が見られる。2つ目の生成A Iについては、教員の方は昨年度から活用できるようになっており、授業改善はもちろん、校務効率化という点でも活用が進んでいる。さらに今年度からは、こどもたちが生成A Iを使えるようにしている。例えば俳句や美術の授業で使うなど、今後は生成A Iの活用がより進んでいくという認識している。
--	--

	(委員) こうとう学びスタンダード定着度調査は江東区独自だと思うが、これが例えば高校入試などに利用されるものではないとの認識で合っているか？ (理事者) 江東区のすべてのこどもたちに、最低限の知識を身につけさせることを目的に始まったのが、こうとう学びスタンダードである。定着度調査は、先生が授業改善したことがどれだけ身についたのかを確認するために実施している。よって、高校入試などに利用することはない。 【テーマ２】 (委員) 小学校の校長先生から、とある学校の１年生のクラスで授業等のコントロール効かない状態になっていたと伺った。幼稚園や保育園などから小学校へ、進学するこどもたちの様子や状態が事前に情報共有されていれば、クラス割などの場面で参考にでき、多動的な子が１つのクラスに固まるといったことは防ぐことができると思うが、実態をお聞きしたい。 (理事者) 連携教育を進めている中で、保育園も含めて就学支援シートや就学時健診等を活用し情報を上げてもらっている。ただし、たくさんの学校があるため、その中で唯一この子の情報が入ってこなかったということはあると思う。江東区には、幼稚園や保育園だけではなく、こども発達センター「CoCo」という施設があるが、そういう施設との連携を図り、就学相談等の情報を含めて丁寧に共有していく必要があると思っている。 (委員) 就学にあたっては幼稚園と小学校では、申し送りを丁寧に行っている。保育園ともかなりされていると思うが、小規模の保育園がたくさん増えた関係で、学区域の保育園が２０近くある地域もあり、すべてのところで、申し送りを行えているのか難しいところもある。今、区立幼稚園では特別支援のお子さんが増えており、２５％が支援の必要な子だと言われている。そのような状況で、幼稚園では子の発達を把握し必要な教育や支援を行っている。関係機関にもできるだけつなぎ、就学相談を勧めることもある。そのようなところが、保育園ではもう一押しという部分もあると思うので、今後は就学前教育として区全体のところを江東区立の幼稚園でも把握していきながら、一緒にスキルを高めていきたい。
--	--

(続)	(委員) 本校では、聞き取りシートを活用して、公立の幼稚園のみならず、保育園、それから小規模の保育園など区外含めて情報は全部取りにいている。通学先は基本的に居住地を基準に学校が決まるが、江東区の場合、学校選択ができる中で、小学校同士が連絡を取り合い連携する土壌がある。 (委員) 発達に遅れがある子たちも一緒に共生していくところが、他の子どもたちにとってもいいことであり、そのために、うまく連携し配置ができると、すごく良い環境じゃないかと思う。連携の事象を、行政の方も他の学校と共有し、丁寧に情報を取りに行き、逆にその保育園や施設には、情報をあげるようワンプッシュしていただけると非常にありがたい。 (委員) 先日、授業参観をしてきたが、理解できている子はほとんど授業を聞いていない状況であった。定数に応じたクラス分けがなされ、クラスごとに異なる授業形態であったが、先生によっては、レベルアッププリントの配布があったりなかったりする。特に算数と英語に関しては、習熟度の差が出やすいと思うが、一貫してその次のステップを提示してあげられるような取り組みについてお聞きしたい。 (理事者) 学力のみならず、ギフテッド傾向がある子、こだわりが強い子など特性をしっかりと見ていく必要がある。本区は、講師の先生をたくさん配置しているので、丁寧に分けて授業ができているが、もう少し丁寧な指導が必要だったと思う。次の学習指導要領では、学校が時間割や教育課程の内容も含めて、２段階にする検討がされている。こどもたちの個性に合わせて、授業の時数は変えていくこともあるが、現段階でもう少し丁寧にやらなければいけないと思っているので、ご意見をしっかりと受けとめて、取り組みを進めていく。 以上
-----	--